

学びのつながりを生かしながら主体的に学習に取り組む児童の育成 —音楽科における既習事項を活用した学習指導の工夫を通して—

特別研修員 音楽 木暮 秀行（小学校教諭）

児童の実態

- 既習曲を提示すると、曲の特徴や表現の仕方を思い出して歌ったり、演奏したりすることができる。
- 新たな題材の学習において、自ら既習内容を生かして曲の特徴をつかもうとしたり、表現を工夫しようとしたりする児童は多くない。

実践事例：音楽科・小6『曲想の変化を楽しもう』

【教材名「思い出のメロディー」深田じゅんこ 作詞／橋本祥路 作曲

教師の願い

- 今までの学習を生かしながら、曲の特徴を捉え、音楽のよさを見だしてほしい。
- それぞれの題材での学びをつなげていくことで、よりよい音楽表現をするための思いや意図をもち、音楽のよさを見いだしてほしい。

「ハンガリー舞曲 第5番」 ブラームス 作曲／シューメリング 編曲

【手立て1】振り返った学びを題材の学びに生かし、思考を深めるための導入

つかむ①（題材の導入）

- 題材の系統性を意識し、過年度と今の学びをつなぐ。

5年生『曲想の変化を感じ取ろう』

題材の系統性を意識

5年生では、「キリマンジャロ」と「夢の世界を」で曲想を感じ取る学習をしました



学びを振り返る活動を設定

音の上がり下がりやリズム、速さや強さ、歌詞の内容などから生まれる曲の感じのこと

「思い出のメロディー」はどのような曲想かな？その曲想を歌で伝えるためにはどのような工夫ができるだろう？

学びのつながり

つかむ②（授業の導入）

- 前時と本時の学びをつなぎ、活動の見通しをもつ。

5年生の題材	
曲想	
旋律の上り下りやリズムの連きで歌うことで、生まれる曲の感じをじっくりと聴くこと	
めあて①	ア イ ウの曲想の感じがじぶんおおきな声で歌う
楽譜から	音の高さで上がり下がりが多い。
歌詞から	音の高さで上り下がりが多い。歌詞は、歌の内容をよく表す
◎曲想	音の高さで上がり下がりが多い。曲想は、歌の内容をよく表す

前年度の学びや前時の学びから、本時のめあてを導き出すためのワークシートを活用

めあて② それぞれの曲想について、思いを入めるための手を工夫

強弱がわざわざつづけていた。 音の大きさをじっくりじぶんおおきな声で歌う	全体的に声が高め、クリーンで、テクニカルな音が聞こえていた。	山なりになるように、じぶんじぶん強く歌う。 なんなら歌う。
---	--------------------------------	----------------------------------

めあて③ それぞれの曲想について、思いを入めるための手を工夫

強弱がわざわざつづけていた。 音の大きさをじっくりじぶんおおきな声で歌う	全体的に声が高め、クリーンで、テクニカルな音が聞こえていた。	山なりになるように、じぶんじぶん強く歌う。 なんなら歌う。
---	--------------------------------	----------------------------------

風がやさしく吹いている海を表現するため、音の上がり下がりに応じた強弱をつけてみるのはどうかな？



【手立て2】学びを蓄積し、交流や次の活動へ生かすためのICT活用

まとめる

- 本時の学びを振り返り、これからの学びにつなぐ。

これからも曲想を生かして歌っていきたい！



思い出のメロディー 振り返り 2

① 曲想を感じることができた

② 曲想を歌で表現するための工夫を考えられた

その他のできごとや気づいたことなど

・声の響き大きさなどを工夫したことによって、曲想を伝えることができるところがあった。

・合唱グループなどと一緒に歌うことで、曲想を表現することができた。

・自分の歌を録音すること、歌った後に音楽鑑賞することで、曲想を理解することができた。

何度も録画と話合いを繰り返して思い通りの表現を工夫することができたね

曲想を意識して聴いたおかげで友達の歌い方の工夫にも気付くことができたよ

演奏や学びの振り返りをタブレット端末に記録し、次の学びへ活用

追求する

- 学びの振り返りを表現活動につなぎ、録画や話合いを基に試行錯誤する。

楽譜から気づいたこと

最初は、オカリナがついでいるから、音の高さをあげると、それが大きくなる。その後が、こうのどきめをあげても、どのくらいかんじなくなってしまって、メロディアは、音の大きさが少なくて少しゆつとうとしている。

では、最後一氣にあがつた。これは、クリップヒントとかテクニカルエンドがある。

強→弱→強 最初からオカリナがついていて、音程も全く同じで、いつまでもこのところでmpで弱くなってしまう心のときめをさすことができない。

音程も全く同じで、いつまでもこのところでmpで弱くなってしまう心のときめをさすことができる。

全員の感じ取った曲想を学習支援ソフトを活用して集約・共有し、表現の工夫に生かす（前時）

感じ取った曲想が相手に伝わる表現になっているかな？

自分たちの思いをもっと分かりやすく伝えるにはどんな工夫ができるか、いろんな歌い方を試そう

強弱だけでなく、動きを付けて歌うのはどうかな？もう一度撮って確かめよう



目指す児童像：既習の学習内容を活用しながら、主体的に学びを深めようとする児童

成果

- 既習事項を振り返しながら学習を進めていったことは、児童が題材の学習に見通しをもち、必要感をもちながら主体的に活動に取り組むために有効であった。
- 学習内容や授業の振り返り、演奏の様子等をワークシートやタブレット端末に記録することで、自らの学びを客観的に捉え、深まっていく様子が見られた。また、表現活動での学びを鑑賞に生かしている姿が見られた。

課題

- より実感を伴った学びにするために、授業の始めと終わりの表現の変容を聴き比べる時間を確保する。そのため導入時での既習曲や既習事項の振り返り方の更なる工夫と活動内容の精選が必要である。
- 学びの蓄積は、思考や表現を広げることにつながるため、継続しながらより有効な方法を検討していきたい。